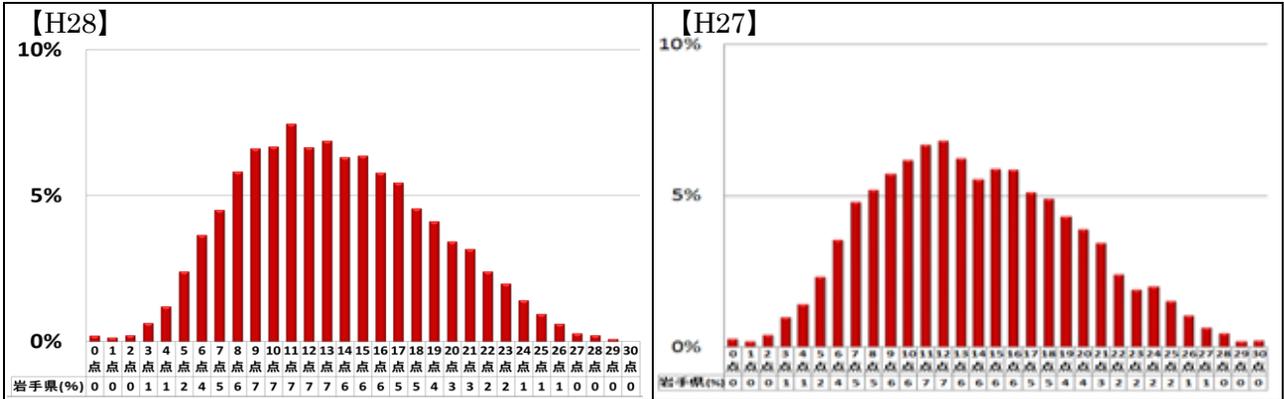


# 授業改善の手引 中学校第 2 学年社会

## 1 調査結果

### (1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 11 問、平均正答数は 13 問です。昨年度の分布と比較して、山の位置や形はほぼ変わっていません。また、正答数 8・9 問の層が増えています。  
 (正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

### (2) 領域等の正答率 (正答率の ( ) の数字は平成 27 年度のもの、〈 〉 の数字は平成 26 年度のもの)

領域等	正答率	観点	正答率
地理的分野 (15 問)	47% (46) 〈45〉	社会的な思考・判断・表現 (10 問)	42% (50) 〈46〉
歴史的分野 (15 問)	43% (47) 〈54〉	資料活用の技能 (9 問)	50% (47) 〈49〉
活用 (4 問)	35% (47) 〈38〉	社会的事象についての知識・理解 (11 問)	44% (44) 〈51〉

### (3) 結果概要

- 「社会的な思考・判断・表現」の正答率は、昨年度の正答率を 8 ポイント下回っています。特に、歴史的な事象について資料を読み取って考察し、その特色や影響などを説明する問題で課題が見られました。
- 「資料活用の技能」については、昨年度の正答率を 3 ポイント上回っています。特に地理的分野において、地図や統計資料の活用等、習得すべき技能の定着において改善が見られました。
- 「社会的な事象についての知識・理解」の正答率は、昨年度と同じでした。地理的分野・歴史的分野ともに、基本的な用語や名称、社会的な事象の内容の理解の定着に課題が見られました。
- 活用に関する問題 (小問 8, 13, 24, 25) の正答率は 35% です。複数資料を読み取りそこから考えられることや社会的な事象の特色を説明する問題、適切な課題を判断する問題で課題が見られました。

### (4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マスを表す)

小問No	正答率	比較	小問No	正答率	比較	小問No	正答率	比較
●3	42	4	●11	40	▲8	●20	44	▲9
●8	25	▲19	◇13	54	14	●24	13	▲23
◇10	38	8	○16	89	46	●25	48	▲21

- ◇ 小問 10, 13, 16 は課題の改善傾向が見られましたが、今後も注視が必要です。小問 13 「社会的な事象の特色を条件をふまえて説明する問題」については、指導の成果が出ています。
- 小問 8, 24 「複数資料を読み取り社会的な事象について考察する問題」をはじめ、課題が継続している問題があります。小問 11 「時差の読み取りの問題」、小問 20 「西暦年が何世紀かを答える問題」等、資料活用の技能に関わる問題についても、意識して指導を続けていく必要があります。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)							
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0	
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答	
1	(1)	1	世界の六大陸の位置と名称を理解している。	地理(1)ア	知			16						76	16	8
	(2)	2	経度や本初子午線についての理解をもとに、地図を読み取ることができる。	地理(1)ア	技			39	12	23	39	24	2			1
	(3)	3	様々な図法の地図を読み取ることができる。	地理(1)ア	技	経年		42	42	14	20	13	7			4
2	(1)	4	世界の主な宗教の分布について、地図を読み取ることができる。	地理(1)イ	技			54	35	54	5	2	3			0
	(2)	5	世界各地の自然環境の理解をもとに、資料を読み取ることができる。	地理(1)イ	技			26	26	28	8	35	3			1
	(3)	6	世界の様々な住居について、資料をもとに判断することができる。	地理(1)イ	思			64	11	64	5	18	1			1
3	(1)	7	北アメリカ州の気候と農業の関連について、複数の資料を読み取ることができる。	地理(1)ウ(エ)	技			64	6	10	18	64	1			1
	(2)	8	オーストラリアとアジア州との結びつきについて、複数の資料を読み取って考察し、説明することができる。	地理(1)ウ(ア),(力)	思	経年活用		25						47	25	28
4	(1)	9	日本の地域区分、都道府県の名称と位置、都道府県庁所在地名について理解している。	地理(2)ア	知			47	17	17	16	47	2			1
	(2)	10	日本の領域(主権のおよぶ範囲)について理解している。	地理(2)ア	知	経年		38	4	19	38	35	3			1
	(3)	11	経度差から時差を読み取ることができる。	地理(2)ア	技	経年		40	18	20	18	40	2			1
5	(1)	12	世界と比べた日本の河川の特色を、資料から読み取ることができる。	地理(2)イ(ア)	技			85	5	6	85	4	0			1
	(2)	13	日本の人口に関する複数の資料を読み取り、その特色について考察し、条件をふまえて説明することができる。	地理(2)イ(イ)	思	経年活用		54					29	54		17
	(3)	14	日本の農業の特色について理解している。	地理(2)イ(ウ)	知			53					25	53		22
	(4)	15	日本の貿易の変化について考察し、判断することができる。	地理(2)イ(ウ)	思			55	13	10	55	18	2			2
6	(1)	16	邪馬台国の女王卑弥呼を理解している。	歴史(2)ア	知	経年		89					8	89		3
	(2)	17	中大兄皇子による政治について理解している。	歴史(2)イ	知			38	38	49	3	3	6			1
	(3)	18	墾田永年私財法の影響について、資料を読み取って考察することができる。	歴史(2)イ	思			34	22	14	27	34	2			1
	(4)	19	国風文化を代表する作品について理解している。	歴史(2)ウ	知			32	16	32	37	11	2			1
7	(1)	20	西暦から、その年が何世紀であるかを読み取ることができる。	歴史(1)ア	技	経年		44					47	44		9
	(2)	21	浄土真宗(一向宗)と親鸞、加賀の一向一揆について理解している。	歴史(3)ア,イ	知			34	33	11	34	18	2			1
	(3)	22	鎌倉時代の政治について理解している。	歴史(3)ア	知			52	22	14	9	52	2			1
	(4)	23	中世の日本のできごとについて、様々な史実をもとに判断することができる。	歴史(3)ア,イ	思			61	12	61	13	11	1			1
8	(1)	24	豊臣秀吉による太閤検地に関する複数の資料を読み取り、その特色について考察し、説明することができる。	歴史(4)ア	思	経年活用		13					68	13		19
	(2)	25	江戸幕府の支配のしくみについての資料や会話文から、学習を進める上で適切な課題を判断することができる。	歴史(4)イ	思	経年活用		48	15	14	20	48	2			1
	(3)	26	江戸時代の鎖国下の対外関係について理解している。	歴史(4)イ	知			41	23	41	20	13	2			1
	(4)	27	江戸幕府の政治改革について理解している。	歴史(4)エ	知			38	11	24	38	21	2			1
9	(1)	28	定期市についての理解をもとに、日本の歴史における産業や経済の変遷について判断することができる。	歴史(2)イ,(3)イ,(4)ア,ウ	思			32	9	32	32	21	3			2
	(2)	29	化政文化についての理解をもとに、資料を判断することができる。	歴史(4)ウ	思			35	26	24	10	35	2			2
	(3)	30	平安時代の貴族の様子について、資料を読み取ることができる。	歴史(2)イ	技			55	55	18	9	14	2			2
全体正答率								45								

## 2 指導のポイント

(1) 基礎的・基本的な知識の確実な定着を図りましょう。

### ア 問題例とその概要

《問題例》【4】(2)・通し番号10】(経年比較問題)

＜社会的事象についての知識・理解＞

〔問題文〕 次の図は、我が国の領域について模式的に示したものです。図中のア～エのうち国の支配が及ぶ領域に含まれる範囲として正しいものを、あとの1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。  
 〔選択肢〕 1 アとイ                      2 アとイとウ                      3 アとイとエ                      4 アとイとウとエ

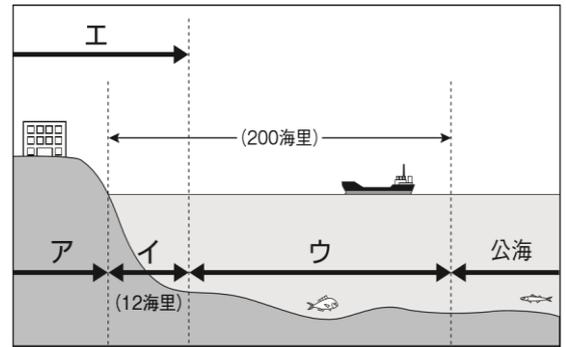
《解答状況》 選択肢1：4%      選択肢2：19%      **選択肢3：【正解】38%**      選択肢4：35%      無解答等：3%

### 《誤答分析》

「(排他的) 経済水域」が領域に含まれると理解している生徒が約5割にのぼっています。言葉の上での理解にとどまっていることが考えられます。

### イ 指導上の留意点

領海や(排他的) 経済水域について色分けするなどの作業的な活動や生徒同士で説明し合う活動、文章形式で表現する活動等を効果的に取り入れましょう。



(2) 学習の基本となる地図や表・グラフ及び年表の見方等の技能を確実に身に付けさせましょう。

### ア 問題例とその概要

《問題文》【1】(3)・通し番号3】(経年比較問題)

＜資料活用の技能＞

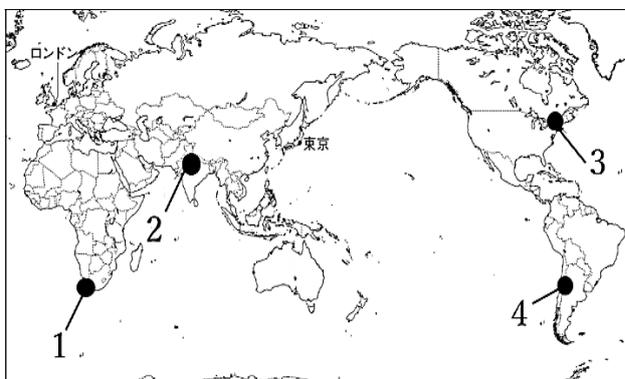
〔問題文〕 次の図ウは、中心であるロンドンからの距離と方位が正しい地図です。図ア中の1～4の都市のうち、ロンドンからの直線距離が東京とほぼ等しい都市を、図ウをもとに考えて1つ選び、その番号を書きなさい。

《解答状況》 **選択肢1：【正解】42%**      選択肢2：14%      選択肢3：20%      選択肢4：13%      無解答等：11%

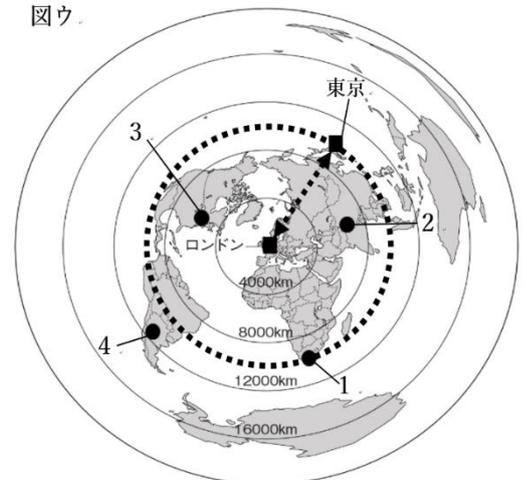
### 《誤答分析》

約6割の生徒が誤答・無解答等となっています。誤答が正解以外の残り3つの選択肢にほぼ均等に分散したこと、無解答等が約1割にのぼったことから、正距方位図法を活用する学習活動が不足していることが考えられます。

図ア



図ウ



### イ 指導上の留意点

問われている都市が、メルカトル図法、正距方位図法それぞれの地図上において、どこに位置しているか確認できるようにしましょう。

地図の学習においては、図法の特性に合った活用ができるよう指導していくことが大切です。その際、生徒個々の実態把握に努め、適切な評価や助言を行うことにより、確実な定着につなげましょう。

※上の図ウ中の点線及び1～4の都市のプロットは本資料用に加筆したもの。

(3) 複数の資料を読み取り、読み取ったことを関連付けて社会的事象の特色や意味などについて考える学習の充実を図りましょう。

ア 問題例とその概要

《問題例》【3】(2)・通し番号8】(経年比較・活用問題)

＜社会的な思考・判断・表現＞

〔問題文〕 次の資料ウはオーストラリアに暮らす移民の出身州別割合の変化を、資料エはオーストラリアの貿易相手国の変化を示したものです。資料ウ、エから、オーストラリアとアジア州の国々との結びつきはどのように変化してきたと考えられますか。「移民の出身州別割合の変化」と「貿易相手国の変化」の両方にふれて説明しなさい。

《正答例》

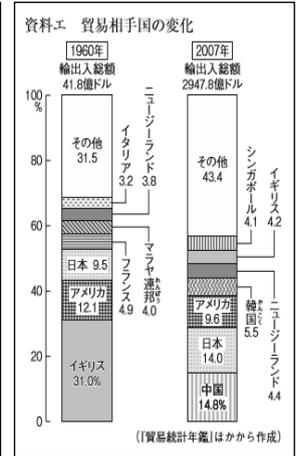
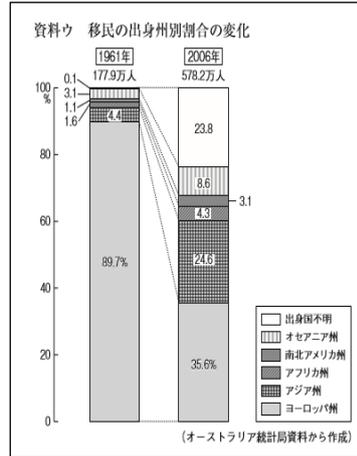
アジアの国々からの移民の割合や、貿易相手国に占めるアジアの国々の割合が増え、結びつきは強まったと考えられる。

《解答状況》

正答率 25% 誤答率 47% 無解答率 28%

《誤答分析》

無解答が多く見られました。また、「アジアからの移民が増えている」など、資料から読み取ったことをそのまま記述し、結びつきの変化と関連付けて解答していないものも多く見られました。



イ 指導上の留意点

複数の資料から問いに関わる情報(事実)を自力で読み取る学習活動を大切にしましょう。また、読み取った複数の情報(事実)を関連付けて思考・判断し、問いに対する考えを自分の言葉で表現(書く、話す)する活動を行わせましょう。

(4) 資料から読み取ったことをもとに、社会的な事象に見られる「目的」や「理由」、「影響」、「特色」や「共通性」などについて考える学習活動を大切にしましょう。

ア 問題例とその概要

《問題例》【6】(3)・通し番号18】

＜社会的な思考・判断・表現＞

〔問題文〕 年表中の下線部C(墾田永年私財法)によって、土地の制度が下線部B(大化の改新)当時とは大きく変わりました。右の資料を参考にして、下線部Cが出されたことによる影響について正しく説明した文を次の1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 国は、農民を動員して開墾を行うなどしてさかんに公地を広げ、公地公民の原則が完成した。
- 2 国は、農民を動員して開墾を行うなどしてさかんに公地を広げ、公地公民の原則がくずれた。
- 3 貴族や寺社は、農民を動員して開墾を行うなどしてさかんに私有地を広げ、公地公民の原則が完成した。
- 4 貴族や寺社は、農民を動員して開墾を行うなどしてさかんに私有地を広げ、公地公民の原則がくずれた。

【墾田永年私財法】(部分要約)

天平15年5月27日 次のような詔が出された。  
 養老7(723)年の規定では、墾田は期限が終われば、ほかの土地と同様に国に収められることになっている。しかし、このために農民は意欲を失い、せっかく土地を開墾しても、またあれてしまう。今後は私有することを認め、期限を設けることなく永久に国に収めなくてもよい。  
 (続日本紀)

《解答状況》 選択肢1 : 22% 選択肢2 : 14% 選択肢3 : 27% 選択肢4 : 【正答】 34%

《誤答分析》

誤答では、選択肢1と3が多く見られました。資料「墾田永年私財法」の内容から、その法令が出されたことによる影響について正しく判断できていない生徒が多いと考えられます。

イ 指導上の留意点

法令や政策の「目的」、歴史上のできごとが及ぼす「影響」などについて考え説明する学習を取り入れていきましょう。また、各時代の学習のまとめにおいては、学習した内容を活用して時代を大観し表現する学習活動を通して、その時代の特色をとらえさせましょう。